

“農家の声”を施策の改善提案へ

農委会が農業者との意見交換を推進

市町村の予算編成に向けて、府内の各農業委員会が「農業者との意見交換会」を進めている。農業者の代表として、市町村長などに施策改善や予算確保の働きかけを行うためだ。

「農地をどう守るか」で議論 福知山市

要望受け毎年市長に意見書 南丹市

福知山市農業委員会は10月31日、農業経営者会議（認定農業者組織）の役員と意見交換会を実施（写真上）。有害鳥獣対策や販路開拓の支援のほか、「農地をどう守るか」を熱心に話し合った。

意見交換会では、7月の新体制移行により誕生した農地利用最適化推進委員と農業委員が農区（集落）単位で話し合いを推進し、経営者会議と連携して担い手の農地利用を支援していくことを確認した。

「農業委員会を通して、担い手の意見が数多く施策に反映している」と経営者会議の北村進会長は語る。南丹市農業委員会は10月27日、若手の農業者と意見交換会を実施（写真下）。「離農者が増える中、遊休

農地にならないよう、情報の一括管理と対策をしてほしい」「意欲的な農業者同士が情報交換する場を作ってほしい」などの意見が出された。同市では毎年、農政部会や全員協議会で検討を重ね、市長に「施策の改善に関する意見書」を提出している。

台風被災農家の

早期復旧を要望

宮津市

宮津市農業委員会は、7～8月に市内10地区で「農業懇談会」を実施。新体制の農業委員・推進委員と農業委員会協力員が各地区の課題を話し合い、その結果を「宮津市の農業施策に関する意見書」に取りまとめ、

16日、宮津市長に提出した。同委員会では、意見書の内容を検討する際、今秋の台風で被災した農家が「来年の営農計画が立てられない」と悩む現状を踏まえて、最優先の要望事項に「台風被害の早期復旧」を掲げた。

市内の全農家にアンケート実施

宇治市

宇治市農業委員会は先月、市内全農家にアンケートを実施。「後継者の有無」「地域農業の存続に必要なこと」などの回答を踏まえ、今後の農地利用最適化推進施策等への反映をめざす。同委員会の吉田利一会長は「農業委員・推進委員が力を合わせて地区単位で活動するために、農家の実情を正確に把握することが大切」と強調。農業者の意見集約を基本に、新体制の委員会活動を展開している。

